

2014年3月期 第一四半期決算説明会 質疑応答

2013年8月1日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：海外カテーテルの一過性の要因は計画に織り込まれていたのか？

A1：欧州の新システム稼働に伴う出荷遅れは想定外であったが、徐々に改善しているため、**Q2**では回復してくると考えている。中国の在庫調整に関しても計画には織り込んでいなかった。米国の泌尿器科向けの製品の直販化に伴う在庫調整は想定していたが、影響額は想定よりやや大きかった。しかし、中国・米国についても7月の状況を見る限りでは平準化してきているので問題視はしていない。

Q2：Q1の営業利益は想定通りとのことだが、カテーテル等の一過性の要因がある中で何がカバーしたのか？

A2：費用の出方は想定通りだった。想定外の売上減の影響をカバーしたのは、やはり海外カテーテルが対計画値では若干上回ったからだと考えている。

Q3：ホスピタル事業の利益率が落ち込んでいるが、「生産性の悪化」が関係しているのか？

A3：前期**Q4**決算で説明した状況からは生産性は改善しているが、新製品の導入がなく、増産効果が大きかった前期**Q1**と比較すると生産性悪化の影響は大きく出てしまう。

Q4：一過性のコストはどの程度か？

A4：前期発生要因が14億ある。これらには、前期初に発生したTCVS社の製品在庫評価の引き上げに伴う利益増との差額や、前期**Q1**のCV競合企業の工場被災を受けた稼働増の反動などがある。これらの費用は**Q2**以降に解消する方向にある。また、TCVS社の品質投資は**Q1**で15億円発生したが、これが今期のピークとなり、今後は解消して行くことになる。なお、カテーテルの一過性の費用については上記回答の通り。

Q5：TCVS社の品質投資はQ3以降どのような推移をするのか？

A5：年間30億円強の計画をしているので、下期は12億円程度を想定している。

Q6：特別利益の金額を見ると、DH IIの売却益が全額計上されていないようだが、今後払い込まれてくるのか？

A6：一時金の入金は**Q2**を予定しているが、収支は**Q1**で認識している。譲渡資産には原価性のあるものも含まれるため、それらを相殺した金額を特益に計上している。

Q7：DH II 譲渡後の Terumo Heart 社（THI）の状況と今後の位置付けはどうか？

A7：THIについては、DH II の開発担当人員はソラテック社に移籍、DH の生産担当人員はTHIに残留、そして残りの一部人員は解雇を予定している。現在、これらの手続きを進めている状況である。

Q8：ノボリ、ミサゴの日本／海外の Q1 売上は？

A8：ノボリは日本で約 18 億円、海外で約 21 億円となり、グローバルで約 39 億円（※）。ミサゴは日本で約 9 億円、海外（欧州のみ）で約 2 億円。

（※）ノボリ売上実績 訂正

Q9：粗利率の低下に影響している「生産性の悪化」とは何か？

A9：前期 Q4 に説明した新製品の立ち上がりの影響が大きい。また、新規投資に対する固定費増も影響している。

Q10：在庫評価替の影響とは何か？

A10：前期初に TCVS 社製品の在庫評価替を行い、会計処理上 Q1 に利益が出たが、Q2 以降は解消していった。しかし、当期 Q1 との比較では、この利益が差額として減益要因となった。

Q11：対会社計画では Q2 以降も為替影響は見込めるのか？

A11：海外成長分野への投資を強化しているため、現地通貨ベースでは想定通りだが、販管費への為替影響は大きくなっており、当期の営業利益の為替感応度は弱くなっている。上期に対しても、為替が現状の水準を維持すれば、為替効果は見込めると考えている。

Q12：「生産性の悪化」は想定通りなのか、Q2 以降は解消に向かうのか？

A12：個々の部分で入り繰りはあるが、全体としては想定通りである。Q2 以降は解消に向かう。

Q13：国内ホスピタル事業の売上が弱い、新製品は貢献していないのか？

A13：新製品の販売状況は前期 Q4 と比較すれば良くなってきているが、静脈留置針は計画 7 割程度、スマートポンプはやや出だしが鈍いといった状況である。

Q14：中国市場に関しては、マクロ経済の動向も含め、影響が心配される様々な要因があると思うが、医療機器の市場はどのような状況か？

A14：外資製薬大手の事件の影響は、現段階では医療機器業界には波及していないが、今後

の影響は分からない。しかし、事件以前から中国政府による流通改革がおこなわれており、全体として医療費を抑制する方向に動いているようである。当社としては、これを機に今後、ダイレクトマーケティングを強化して対応していきたいと考えている。

Q15：現状の為替水準が続けば、**Q2** で為替差損益はニュートラルになって来るのか？

A15：その通りである。

Q16：在庫が増えているようだが、海外在庫の増加による未実現利益の消去の影響は問題になっていないのか？

A16：在庫には高収益品もあるので、未実現利益の消去の影響も考慮しながら適正在庫のコントロールを行っている。また、在庫の増加のうち半分以上は為替影響によるものであるため、この影響も考慮しながら在庫のコントロールを行っていく計画である。

以上